

MLP
Monthly

2020年4月の

MLPの動きをザックリご紹介

MLP マンスリー

nikko am
fund academy

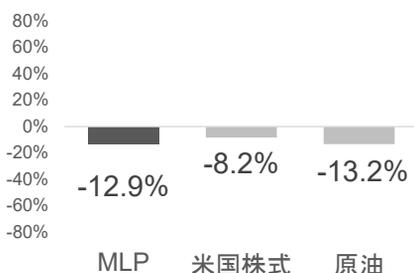
■ 当月のS&P MLP 指数の動き

4月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+45.7%と4か月ぶりに上昇しました。

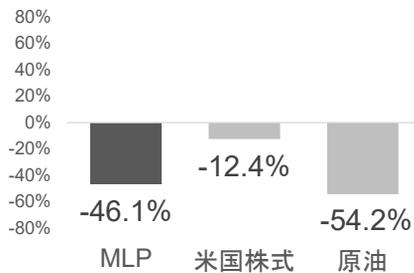
米国内でも新型コロナウイルスの感染が深刻なニューヨーク州における感染拡大のピークが近いとの見方が広がったことや、FRB(米連邦準備制度理事会)による新たな資金供給策の発表、さらには政府による追加景気対策が成立したことなどが好感され、米国株式市場が上昇する中、MLPも上昇基調となりました。

■ 過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)

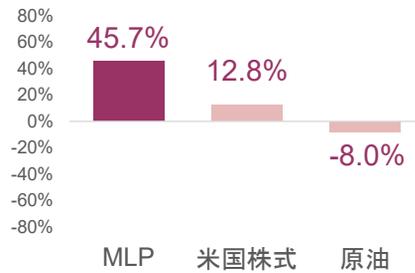
2020年2月



2020年3月



2020年4月



■ 主要指標の動き

MLP: S&P MLP 指数、米国株式: S&P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
	2020/4/30	2020/3/31	2020/1/31	2019/12/31			
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	2,855.70	1,960.49	4,180.13	4,443.25	45.7%	-31.7%	-35.7%
プライスリターン	797.62	553.46	1,195.48	1,283.04	44.1%	-33.3%	-37.8%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	5,944.68	5,269.20	6,551.00	6,553.57	12.8%	-9.3%	-9.3%
プライスリターン	2,912.43	2,584.59	3,225.52	3,230.78	12.7%	-9.7%	-9.9%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	544.36	419.45	752.88	846.58	29.8%	-27.7%	-35.7%
プライスリターン	289.65	223.40	405.45	456.46	29.7%	-28.6%	-36.5%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,172.05	1,082.94	1,498.64	1,481.35	8.2%	-21.8%	-20.9%
プライスリターン	269.63	249.59	348.73	345.21	8.0%	-22.7%	-21.9%
米国ハイイールド債(ICE BofA Merrill Lynch・米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,272.77	1,226.17	1,411.45	1,411.39	3.8%	-9.8%	-9.8%
プライスリターン	68.09	65.94	76.72	77.11	3.3%	-11.3%	-11.7%
米国10年国債利回り							
	0.64%	0.67%	1.50%	1.91%	-0.03	-0.86	-1.27
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	18.84	20.48	51.56	61.06	-8.0%	-63.5%	-69.1%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	1.95	1.64	1.84	2.19	18.8%	5.9%	-11.0%
米ドル(対円)							
	107.18	107.54	108.35	108.61	-0.3%	-1.1%	-1.3%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。■指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

■ 当月の出来事いろいろ

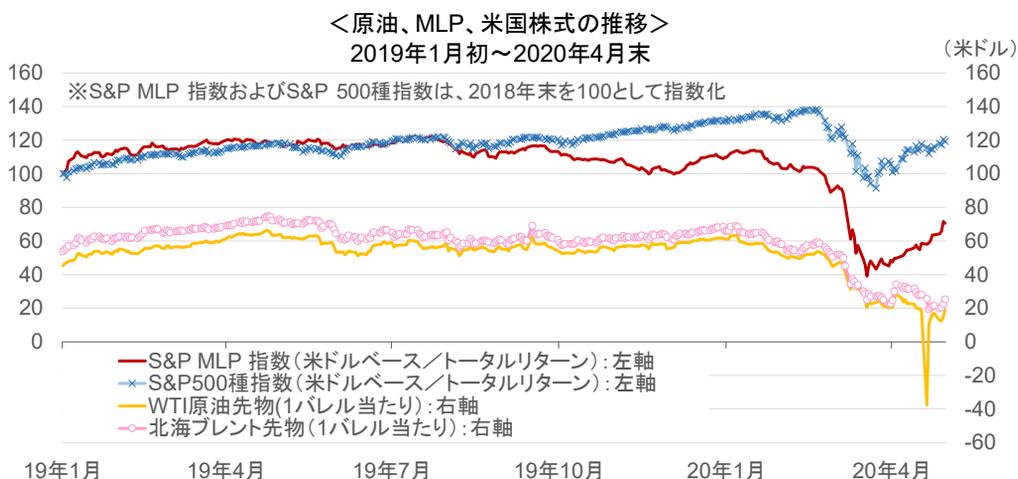
- S&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、4月第5週末までで5週連続での上昇となった。原油価格については、WTI原油先物が、米原油貯蔵施設の能力の限界が近いとの見方が強まったことなどから、20日に初のマイナス価格を付けるなど、大きく下落する場面があったものの、MLPは、米国株式市場が堅調に推移する中、大きく上昇する展開となった。S&P MLP 指数の3月18日に付けた直近安値から4月29日の直近高値までの上昇率は+83.5%となった。
- 4月12日、OPEC(石油輸出国機構)加盟・非加盟国で構成するOPECプラス会合が開かれ、5~6月に日量970万バレルなどの協調減産の再開で最終合意に至った。ただし、13日のWTI原油先物価格は、合意内容は原油の需給改善にとって不十分との見方などから、前週末比小反落で引けた。その後、WTI原油先物価格は1バレル=20米ドル前後で推移していたものの、20日、米原油貯蔵施設の能力の限界が近いとの見方が強まり、取引最終日を翌日に控えた5月物が暴落し、前週末比-55.90米ドルの-37.63米ドルと、初のマイナス価格となった。ただし、その後は、サウジアラビアが他の産油国と原油のさらなる減産に向けて準備しているとの報道などを背景にWTI原油先物価格は上昇に転じ、18.84米ドルで月末を迎えた。

■ 今後の注目点

- 景気や原油需要への影響を見極める意味でも、新型コロナウイルスの感染拡大・収束の動向が注目される。なお、サウジアラビアとロシアの歩み寄りにより、5月から主要産油国の間で協調減産が再開されることとなったものの、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の収束の目途が立たない中、需要低迷が長引くような場合、足元の減産だけでは需給の緩みを解消するには至らない可能性が考えられ、一段の減産を巡る産油国の今後の動きも注目される。

■ 原油価格とMLP価格

4月20日のWTI原油先物は新型コロナウイルスの感染拡大の抑制措置を受けた原油需要の減少に伴ない、米国において、原油貯蔵施設の能力の限界が近いとの見方が強まり、一気に売りが加速したことから、史上初のマイナス価格となり、原油の売り手から買い手にお金を払うという異常事態となりました。同日のS&P MLP 指数は前週末比1.0%の下落となったものの、その後は、米国株式市場が堅調に推移する中、月末にかけて上昇基調となりました。



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

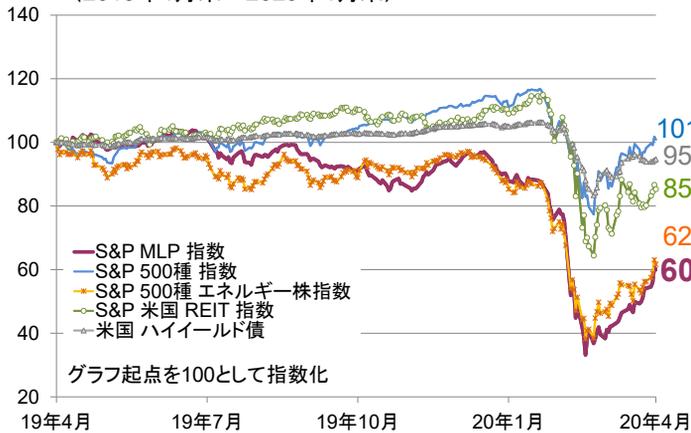
※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。■指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

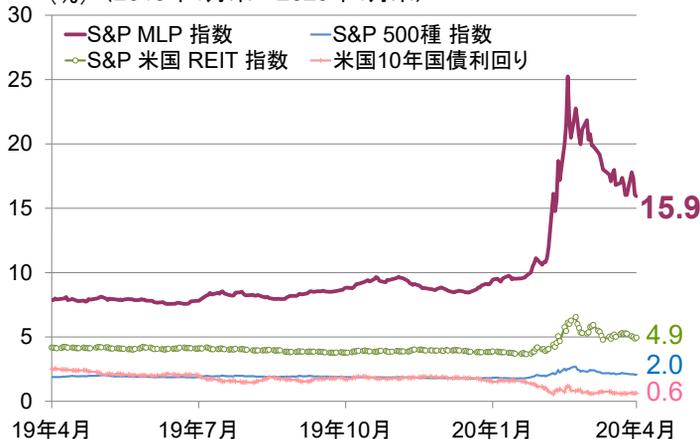
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2019年4月末～2020年4月末)



■過去1年の各資産の利回り

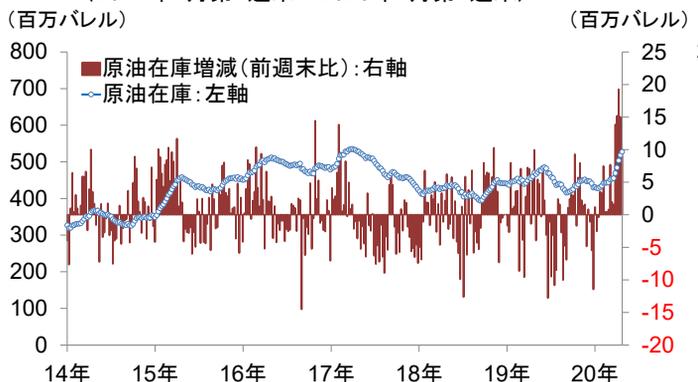
(%) (2019年4月末～2020年4月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

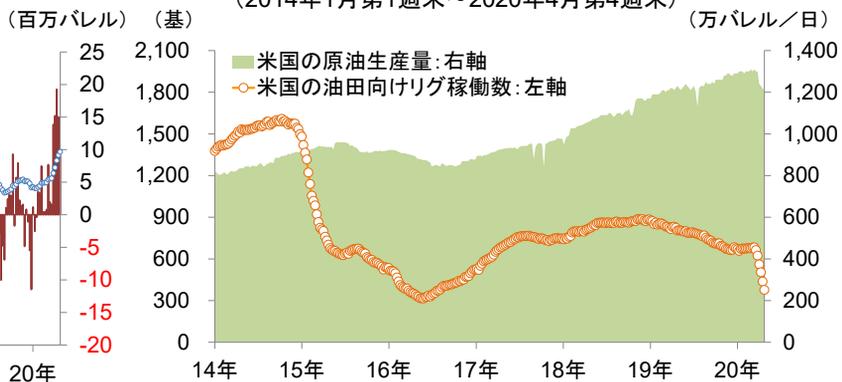
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2020年4月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

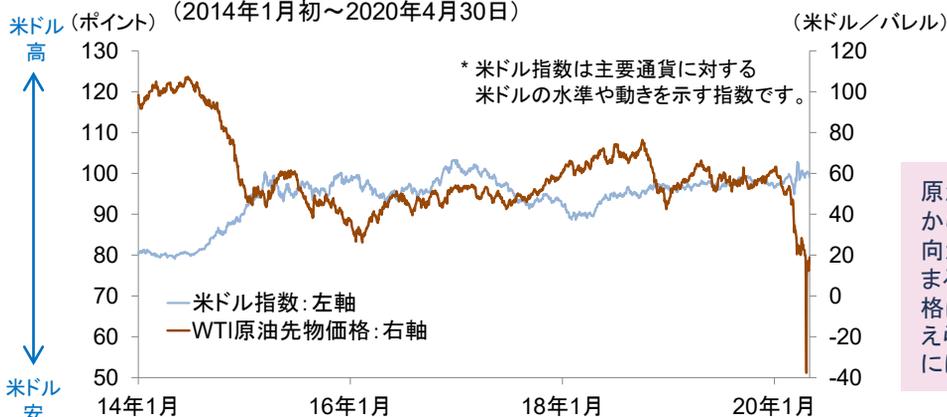
(2014年1月第1週末～2020年4月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2020年4月30日)



* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。